

序

平成 24 年度を振り返りますと、平成 23 年度に行われた地方独立行政法人への移行、電子カルテの導入や施設の大改修工事等の大きな事業が少し落ち着き、平成 25 年度に予定された大阪府立泉州救命救急センターとの統合に向け、歩み始めた年となりました。

まず平成 24 年 4 月 1 日には、新たに地方独立行政法人りんくう総合医療センター理事長に八木原俊克先生が就任し、また事務局の人事にも変更があり、病院として新たな体制で運営を開始致しました。

診療面では、大阪府地域医療再生計画に沿って、大阪大学と近畿大学に寄附講座を開設していただきました。当院には大阪大学から血液内科と糖尿病代謝内科のスタッフも派遣していただき、呼吸器内科は両大学から外来診察に来ていただいています。今後も地域医療に貢献できるように、引き続き診療を行うと共に大学との関連を深め、まだ不足している診療科の補強にも努めて行く所存です。

一方、隣接する大阪府立泉州救命救急センターの拡張工事が平成 24 年 3 月に完成し、救命センターには、I C U に 18 床、5 山病棟に 12 床が出来ました。それにより、救急患者や重症患者の受け入れ態勢が向上致しました。そして同時に、平成 25 年 4 月の統合に向けた、準備作業を 1 年かけて行ってまいりました。

平成 23 年度に設立した救急科は、引き続き泉州救命救急センターの医師の協力で、9 床のベッドを確保し、救急症例の診療受け入れが従来より少しでも円滑になるように致しました。また、脳神経センターと心臓センターは両病院で窓口一元化に取り組みました。もともと二つの病院であり、救急外来も別々にありますが、脳疾患と心臓疾患の救急症例の受け入れ態勢を一本化し、両病院のスタッフが協働して診療にあたるシステムを取り入れました。さらに、急性期外科的病態の手術と術後管理を、両病院内で完結する体制を強化するために、当院の外科と泉州救命救急センターが協働して Acute Care Surgery センター(急性期外科センター)を設置しました。同様に、様々な職種のスタッフもお互いの業務内容が違うため、まずは話し合うところから開始し、統合の準備を行ってまいりました。経営面では、薬剤や消耗品等の統一化など、スケールメリットを活かした運営ができるように検討してきました。

また、以前より外国人患者の診療では、国際外来を設置し、医療通訳の育成などで実績をあげてきましたが、平成 25 年 2 月に新たに創設された「外国人患者受け入れ医療機関認証制度」を受審し、認証を受けました。まだ日本で認証されたのは 3 病院のみであり、この分野では指導的立場で活動する必要があると思っています。

明るい話題も多いのですが、まだ一部の診療科の医師不足や看護師不足があり、病院運営は大変厳しいのが現状です。特に、拡充した I C U 等の重症管理部門を運営するには、今まで以上に看護師の体制強化が必要です。また、初期研修医は競争率が高まり、優秀な人材でフルマッチとなりました。今後とも若手医師を始めとして、医療人の育成には更に力を入れたいと考えています。

最後に、皆様方には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

病院長 伊豆蔵 正明